

社会福祉法人 筑西市社会福祉協議会  
第4次地域福祉活動計画に関するアンケート  
(自由記述抜粋)

令和4年8月1日

■広報関係

問4：広報紙やホームページ等で、発信してほしい情報・知りたい情報はありますか（自由記述）

- ・地域で展開されている（住民主体の）活動に関する情報
- ・筑西市全体のボランティアの情報
- ・災害時の社協活動状況（内容等）や、ボランティア活動の事例など
- ・地域活動で、うまく連携・機能している地域の紹介
- ・障がい者のスポーツ大会等の情報。
- ・各施設や事業の内容（どのような人が関わり、どのような活動をしているか）。
- ・地域の小さい（少人数）活動の調査・取材記事
- ・多様なサービスの利用方法について
- ・社協事業の構造的なしくみについて
- ・福祉等に関する。5年後、10年後の「予測されるシミュレーション（地域像）」
- ・ヤングケアラーについて
- ・社協活動を逐次報告（民生委員に託してはどうか？）
- ・避難行動要支援者支援について
- ・地域で開催される「サロン」の開催状況
- ・元気ふらす教室の日程など
- ・高齢者や障がい者、子育て支援などの若い世代、一人親世帯が求める情報。

問 28：ボランティアセンターに、どのようなサポートを希望しますか（自由記述）

- ・ 公的扶助では対応できない部分のサポート
- ・ より活動を広げるため、参加に消極的な人でも関心が高まり、参加へとつながるサポート
- ・ 障害者もボランティア活動ができる体制づくり。
- ・ 日常生活でできる簡単な手伝いや言葉かけの例を提示してもらえると、一般の人の実践力アップに結びつくと思う。実践活動を広報してもらえると「真似してみよう」と広がると思う。
- ・ ボランティア養成講座が修了した後の、活動へのサポート
- ・ 超高齢社会でも存在する「地縁パワー」へのサポート
- ・ ボランティア活動に参加している人の相談相手
- ・ 災害時、災害ボランティアセンターにおける「支援」と「受入」の円滑な割り振り、連絡調整

問 31：ボランティア養成講座に、どのような講座があれば受講してみたいですか

- ・ 災害ボランティア
- ・ 交通指導ボランティア（道路上の徒歩・自転車乗りの安全指導）
- ・ 子育て支援ボランティア
- ・ 傾聴講座・傾聴ボランティア（既存）
- ・ ボランティア入門・初心者向けボランティア
- ・ 子ども食堂ボランティア
- ・ 高齢者心理学
- ・ 高次脳機能障害ボランティア（サポーター）養成講座
- ・ 民生委員さんと連携した、訪問ボランティア
- ・ 障がいのある子（特に幼児期）の接し方や家族への支援に係わる講座
- ・ 小学生から高校生ままで、地域の若い世代も参加できる講座
- ・ withコロナならではの、消毒ボランティア講座
- ・ 健康づくりに関する講座
- ・ 介護をしている家族支援

## ■これからの地域福祉について

問 47：今後「こんな福祉サービスや事業があったらいいな」と思うものがあったら教えてください。

### 地域生活

- ・ 買い物が困難な高齢者が多いので、全市内に移動販売車が訪れると良い
- ・ 地域の高齢者で、ゴミ捨てや給油（冬季）が困難な人に対する支援
- ・ 行政サービス等が分からない方が孤立しない、申請支援などのきめ細やかな見守りと支援
- ・ ヤングケアラーへの相談や援助の充実、地域で支え合えるシステム
- ・ 若い世代であっても、生活に課題がある人への支援充実
- ・ 地域に住む外国籍の方に日本語を教える場所、相談場所を増やして地域になじめるようなサポート。
- ・ スマホなどを利用して、地域に馴染めない方でも集まりやすい・つながりやすい環境を作っては
- ・ 緊急時には、自治会や民生委員が持つ個人情報の共有が可能になると良い
- ・ 自宅の手入れをしたくても、身体的な問題や費用負担によって対応できない人や、空き家の管理や活用についての助言、相談対応。
- ・ 障がいがあっても参加できる、スポーツ等の誘い

### 福祉事業

- ・ 事業内容などをもっと分かりやすく地域に。利用者や支援者の「生の声」を発信しては
- ・ 福祉や各種制度について、積極的に地域（各町内）での説明や情報提供を。
- ・ 相談窓口だけでなく、相談内容の例や成果を広報紙等で周知すれば、共通の悩みを持つ人が居ることを知って、相談につながりやすくなる。
- ・ 日常生活自立支援事業のニーズに対応し、事業拡大をして成年後見制度の利用支援につなげては
- ・ 各種申請や手続きなど、行政手続きを代行してくれるサービス
- ・ 高齢者や身寄りのない人の、入院や受診に際する支援、付き添い、送迎などのサービス
- ・ 介護保険のサービスが入れない時間帯での見守り支援など
- ・ 地域の認知症ケアを支援する専門的な支援者を、もっと増やして欲しい。
- ・ 障がいを持つ方や保護者に対する、親亡き後の相談対応ができる窓口の充実
- ・ 介護保険サービスでは、まかなえない部分のヘルパー支援（もっと使いやすく）
- ・ 身寄りのない高齢者が相談しやすい（本人亡き後の話など）相談場所の充実
- ・ デマンドタクシー（のり愛くん）の予約支援、そして近隣市町村にまで行けると良い
- ・ 高齢者や障がい者という枠だけでなく、幅広い年齢層を対象とした事業があれば良い
- ・ 介護予防の参加者が利用できる場所や内容の充実
- ・ 家族の病気やケガによって、急激に生活困難となる場合の対応を検討してほしい
- ・ 福祉施設の空き車輛を利用した移動支援サービスや、付き添いの支援

問 48：みんなで助け合い・支えあう地域社会をつくるため、何かアイデアがあれば教えて下さい。あなたができること、地域で取り組むことなど、何でも結構です。

## 地域生活

- ・地域に住む、すべての世代が関わりを持てる、集いの場があるとよい。例えば、バザー、フリーマーケットを開催し、会話のきっかけを作る事でコミュニティが生まれると思います。
- ・家で眠っている物や忘れられている食品を、地域で有効活用できないか
- ・最近自分を守るのが懸命になっている。近くに親族がいない人は不安も大きいので、近所同士の助け合いの活性化が必要。
- ・昔の「井戸端会議」のような場所づくりに、若い人にも参加を促しては。声を掛け合う環境や地域の輪と和が広がると思います。
- ・モデル地区（小地域・自治会）を設定して、様々な取り組みや情報を共有できるようにしては。
- ・高齢者が持つ経験・能力・技術を結集することで、地域力の底上げが期待できるのでは。
- ・民生委員活動だけでは、さまざまな情報や支援方法を伝えるのは難しい。必要に応じて、社協職員が同行してもらえると助かる（協力要請の窓口を）。
- ・公民館などに、誰でも利用できる「まちかどカフェ」などを作ってはどうか。
- ・誰でも、ちょっと休める外ベンチを多く設置すると交流が増え、助け合いにもつながるのでは

## 福祉事業

- ・広報紙では分かりにくい部分もあるので、対象者へ適切に・確実に、必要な情報を伝える工夫が必要。
- ・社協の事業を知らない人は多いので、必要な人に・必要な情報が伝える工夫が必要。誰もが見やすいパンフレット（イラスト・写真入り）を作ってはどうか。
- ・地域の人と地域の人を結びつけることが重要では。在宅支援は「個人」で対応するのは難しいので、地元企業と連携した支援体制があれば関心も高まり、参加もしやすい。
- ・個人情報障害になり、人とのかかわりが希薄になったように思う。情報が無さすぎて、コミュニケーションが取り（声をかけ）づらい点を改善できれば、より地域が活性化するのでは。
- ・支援を求めている人・必要としている人にもアンケートを取れば、より良い情報が集まる
- ・支所を拠点として、民協や高齢者クラブなどの事務局を、社協が担ってはどうか。
- ・地域活動や介護予防事業に、より参加しやすいように「使いやすい」送迎サービスを提供しては。
- ・避難行動計画づくりと同時に、自主防災組織を全地区に。警察消防と地域が連携できると良い。
- ・遠方に行かなくても、地域で集う場が必要。空き店舗や空き家も活用しての場所づくり。
- ・福祉事業に賛同し、売り上げの一部を寄付する等の取り組みを、市内商店・道の駅などと連携しては。
- ・窓口対応もですが、日常的にZOOMなどを用いたオンライン相談も検討しては。

## その他

- ・アンケート方法も見直すべき（回答や集計のしやすさ、オンラインなど）
- ・筑西市第4次地域福祉計画の「基本目標③包括的に支え合う仕組みづくり」の「公助の取り組み」として明記されている「自治会と民生委員児童委員の連携強化」のための数値目標：「自治会・民生委員児童委員の連携のための会議開催数＝年1回」を確実に実施することが不可欠です。
- ・予算の使い方を見直し。高齢者支援や障害児支援など、具体的に用途を示してほしい。